

矢部清流学園

学校だより 13号



善遊善学

学校教育目標 ふるさと矢部を愛し、未来を拓く学力と健康な体を持ち、共に伸びる
児童・生徒の育成～学校地域家庭をつなぐ「総がかりの教育」の推進～

重点目標 自分の思いや考えを仲間とつなぎ、広げていく子どもの育成
～ つなごう・広げよう～

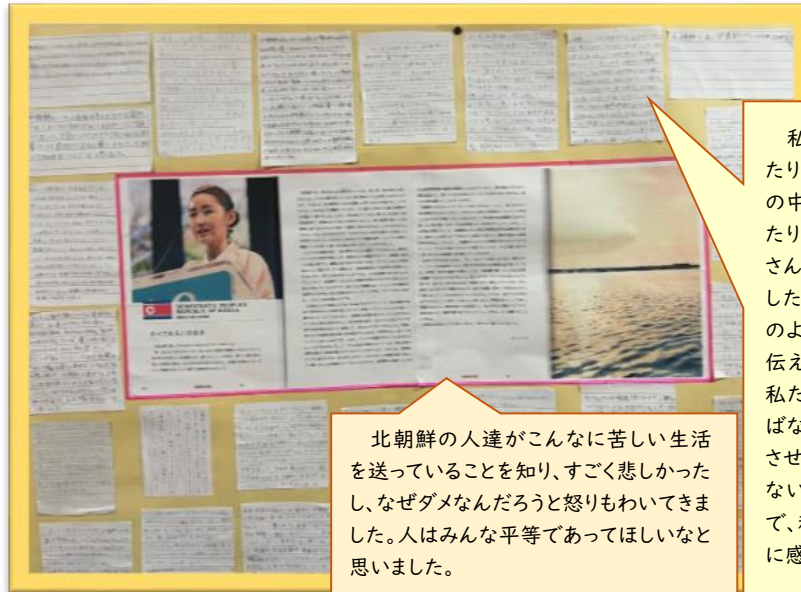


令和4年12月23日 文責 古川 志乃

Have a wonderful winter holidays !!

昨日(12月22日)は、昼の時間が一番短い日「冬至」。ゆず湯に入って冷えた体を温め、疲れを癒やしましたか? さあ、明日から冬休みです。年末年始も迎えるので、大掃除など家の手伝いを積極的に行い、有意義に過ごしましょう。

さて、今年も残り一週間となりましたが、みなさんにとって2022年はどんな年でしたか? 京都清水寺で披露された今年の漢字は、「戦」でした。ロシアのウクライナ侵攻が始まり、依然として戦火に追われるつらいニュースが毎日のように流れ、あらためて「平和」の尊さについて考える年でした。12月の人権週間、善遊科の子ども達は、友達と仲良く、互いを思いやる心を育むためのメッセージカードを作成し、期間中、胸に掲げて人権を意識する生活を送りました。清流会生活健康専門委員会では、北朝鮮のヨンミ・パクさんのインタビュー記事「命は贈り物」を読んだ感想をそれぞれに書いて図書館前に掲示するという人権啓発の取組を行いました。私も、これらの人権週間の取組に触れ、様々な人権問題について「誰かのことではなく自分のこととして捉え考えていきたい」と思いました。



北朝鮮の人達がこんなに苦しい生活を送っていることを知り、すごく悲しかったし、なぜダメなんだろうと怒りもわいてきました。人はみんな平等であってほしいなと思いました。

私はこの記事を読んで、今の生活はあたりまえではないことを一番感じた。世の中には、自分の好きなことができなったり、自由を奪われたりしている人がたくさんいることを知ることができた。思い出したくもないこと、つらい経験についてこのようにメディアを通じて、私達に必死で伝えようとしていることがわかったので、私たちはもっと社会の情勢を知らなければならぬと思った。世界中では、勉強をさせてもらえず、ずっと働かなければならない人もたくさんいることがわかったので、私が今いろんなことができていことに感謝して、勉強を頑張りたいと思った。

12月7日(水) 3年生、9年生「八女茶学」お茶の淹れ方教室

【ねらい】八女茶の歴史、お茶の効能や生産農家の働き、おいしいお茶の淹れ方などの講話や体験を通して、お茶の淹れ方の基礎を身に付けると共に八女茶のよさを学ぶ。

つなごう

JA黒木支部青年部の方々に来校していただき、みんなで楽しくお茶の淹れ方を学びました。

【児童・生徒の感想から】

(3年生)

- ・ぼくは、お茶をつぐのはできるけど、はじめていれ方を習いました。8人分をつぐのがおどろかしかったけど、できたのでよかったです。家にかえてお父さんとお母さんにお茶をいれたら、「おいしい」と言ってくれました。(O.Oさん)
- ・上手にいれられたし、「おいしい」と言ってもらえたので、とてもうれしかったです。今までは、苦いお茶は苦手だったけど、まんじゅうといっしょに食べるととてもおいしかったです。家族にもいれてあげたいです。(N.Aさん)

(9年生)

- ・自分は、お茶の味はどのような淹れ方をしても変わらないだろうと思っていたが、今回の学習で、お茶はお湯の温度や注ぎ方、待つ時間でも味が変化して、それぞれ特徴的な味がでること、そして、自分が好きな味や苦手な味、一緒に食べていいものなど、沢山のことを知れたので、家庭でもお茶を淹れてみて、味がどのようになるかを試してみたい。(E.Sさん)
- ・お茶の淹れ方教室で、自分は久しぶりにお茶を淹れて、お茶のまわしつぎをする際、量や濃さを均等にするのが難しかった。また、お湯の温度が高ければ少し苦くて、低ければ甘いお茶になることがわかり、今まで意識せずにしていたことなので、今度、家でお茶を淹れる時には、家族の好みに合わせてお茶を出してみたいと思った。(T.Sさん)

広げよう



イルミネーションが、矢部の極寒の夜を明るく照らしてくれています。谷野の山肌にあるイルミネーションは昇盛会によって制作されているのですが、今年のイルミネーションのデザインには矢部清流学園のみなさんに募集されたアイデアが取り入れられています。2023年「平和」な年が訪れますように・・・

